

# 福井の足跡 IN 東京(7)

東京福井県人会  
平成22年11月1日(月) 発行  
発行責任者 理事長 山内高嘉

## 渡邊洪基の略歴

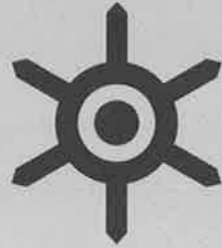
- ◆弘化4年(1847年)12月23日、府中善光寺通りに生まれる。孝一郎と言った。
- ◆安政3年(1856年)10才のとき、武生藩校立教館に入り、非常に良い成績で、神童とよばれた。
- ◆12才の春、当時の幕末騒然とした世の中で、橋本左内の安政の大獄、井伊直弼の桜田門外の変、咸臨丸のアメリカ行き、鎖国の解除などに刺激され、ぜひ江戸に出て変化する日本の姿を自分の目で確かめ、新しい学問を身につけ、すぐれた外国の文明を取り入れたいと思家出をするが、すぐ説得され連れ戻された。
- ◆15才の春、文久3年(1863年)江戸に出て勉強した。最初オランダ語を勉強するが世界をリードする国はイギリスだと思った孝一郎は、オランダ語の勉強をやめた。
- ◆18才、慶応2年(1866年)福沢諭吉の慶應義塾に入り、政治学、兵術学の勉強をした。
- ◆明治3年(1870年)明治政府の頼みで外務省に入り、岩倉具視らと欧米への海外事情視察に出かけた。その後太政官、外務省、司法省につとめ明治政府で活躍した。
- ◆明治18年(1885年)東京府知事になった。
- ◆明治19年(1886年)東京帝国大学初代総長になった。当時38才の若さであった。
- ◆明治34年(1901年)55才で死去。
- ◆郷土の産業開発にも大いに力をつくし、出身校の子供達にいつも話して聞かせた言葉は「どんなに頭がよくっても、頭がよいと怠ける者は、世の中のために何の役にも立たない。」ということであった。

※武生東小学校《わが校の歴史》—本校の生んだ先輩達一から抜粋しました。  
(越前市善光寺通商店街振興組合作成)

# わたなべ ひろもと 渡邊洪基(旧武生市)1847-1901

## 初代 東京大学総長 明治国家のプランナー

### 都のマーク



昭和18年の東京都制施行の際、東京市のマークを受け継いだもの。このマークは、渡邊洪基が発案したといわれ、明治22年12月の東京市会で決定されました。東京の発展を願い、太陽を中心に6方に光が放たれているさまを表わし、日本の中心としての東京を象徴しています。

### 明治新国家樹立に身を捧げた男

福沢諭吉に学び、岩倉具視が一番恐れられた外交官、東京府知事として帝国大学初代総長等を歴任した渡邊洪基の波乱に満ちた人生を描く。

### 渡邊洪基伝



推薦  
佐々木功(東京福井県人会理事長)  
奈良俊幸(越前市長)  
三田村俊文(武生商工会議所会頭)

発売元・株ルネッサンスサククス  
電話 〇三(五四一)二七一八八  
定価 一、六八〇円(税込)



## 渡邊洪基先生の 足跡を求めて

### 新井進(ペンネーム(越前市))

(※写真は武生歴史探訪(中巻)より転載)



渡邊洪基生家  
善光寺通り商店街提供

「この福井県から初代の帝国大学総長が出られたようじゃ」「そんな有名な学者さんが輩出方じゃそや」「小生の小・中学時代に、そのような大人達の噂話を聞いた覚えがある。ペリー来航の六年前の弘化四(二八四七年)、洪基は府中(現越前市)の後の藩医静庵の長男として生を得た。藩校・立教館、福井藩・済世館から千葉・佐倉の順天堂で和蘭語を習得、江戸に出て算作塾、福沢塾で英学を体験した。やがて戊辰戦争に巻き込まれるが、新政府に建白書を提出する。それが認められ、外務省出仕の身となる。岩倉使節団、オーストリア駐在、文書局長に栄進するが、ある事由から依願退職。その後、元老院議員(その間、多くの意見書提出)、工部副次官から第九代東京府知事に就任した。翌明治一九二八八六年初代帝国大学総長に抜擢された。その時、洪基四十歳(教える年)であった。そもそも幕府藩書取調所より幾多の変遷を経て、明治十(一八七七)年の東京大学が発足したが各学部の統制がとれておらず、第一次伊藤内閣が発足すると森有礼を文部大臣に据え、翌十九年三月に帝国大学会を公布し、学者ではなく海外の知識を体得し、有言実行型の総長に洪基が任命された。



慶應義塾時代の仲間、前列左から三人目が渡邊洪基、その右が福沢諭吉

退任後、オーストリア全権公使、衆議院議員、貴族院議員を歴任する一方、鉄道・金融・保険会社の社長・役員を兼任し事業の発展に尽力した。残念ながら、明治三十四(一九〇一年)、五十五歳で他界した。その理念、思想は脈々として現代に至るまで受け継がれ、世界の中心の日本、近代日本の形成を演出した人物である。遅くなったが「渡邊洪基伝—明治国家プランナー」を今年九月下旬に幻冬舎より出版した。(定価二六八〇円(税込))



## わたなべ ひろもと 渡邊洪基

(一八四七(弘化四)―一九〇一(明治三十四年))  
※肖像写真は孫渡邊洪さん提供

## 東京で活躍した福井の偉人たち

帝国大学(現東京大学)の初代総長に就いた渡邊洪基は、優れた教育者であるとともに政治家であり、近代日本を支えるスーパーマンでした。

一八四七年、越前府中善光寺通り(現越前市・旧武生市京町二丁目)に蘭医渡邊静庵の長男として生まれました。福沢諭吉主宰の慶應義塾で英学を修め、七一年に岩倉具視遣欧使節団に随行。イタリヤ・オーストリア公使館駐在の外交官として、世界のすう勢を体感しました。

洪基は七八年、新設された私立学校、学習院(現学習院大学)の次長となり、幼稚園から普通科、さらには上の実学科(政治、経済、兵学)と文学科(和、漢、英学)をつくり、女子も普通科で一般教養を身につけさせるという学制を決

## 東大総長、知事…

### 近代国家の スーパー・マルチ・プランナー

めるなど、学習院の基礎を築いたので。経済面でも非凡な才能を発揮します。銀行券の乱発によるインフレを立て直すため、日本銀行にだけ兌換券を発行させるよう、ときの大蔵卿に進言したのです。八五年に第九代の東京府(現東京都)知事に就任。今も使われている東京のマークを制定したのが洪基でした。

知事を九カ月務めた後、帝国大学初代総長に。詰め襟、五つの金ボタン、角帽という今でも受け継がれている学生の制服も決めたのです。工業技術振興の必要性も強く感じ、工手学校(現工学院大学)を設立して理事長に就任しました。

洪基は政治、経済、教育、あらゆる面で明治日本の基礎固めを実行した頼もしい人物だったのです。



渡邊洪基生家跡・地元商店街の誇りになっている  
東京大学  
初代総長  
渡邊洪基